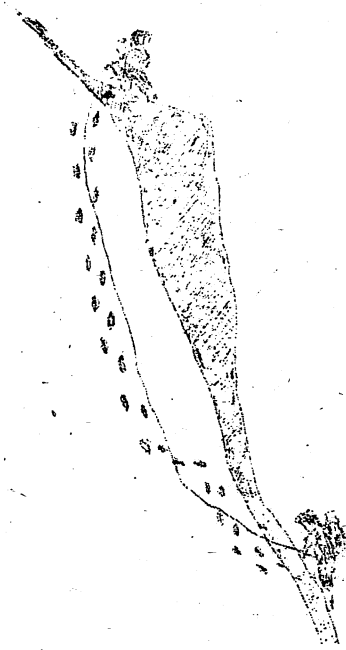


冬山報告書

Dec. 21, '72 ~ Jan. 4, '73

於北アルプス 槍ヶ岳周辺



信州大學山岳会
伊那・松本山岳部

冬山を終えて

C.L. 小根田 一郎

当初の計画通り行動でき、全員無事下山できた事に感謝したい、初めの計画立案段階に於て3partyに分かれての槍ヶ岳集中という案が多く出された。これは個々のpartyの行動は十分可能だと思う、しかし、どれかのpartyに不測の事態がおきた場合、他partyとの連携に於て各partyの指導者の数も力量も現状では不足している。結果的には各行動とも割合スムーズに進行したがこれが満ちる要素は多々あり、今回の計画がスムーズに進行したという事は喜ぶべき事と思う。決りきったこの位は普通だといふような意識を持って将来の山行の基準にすべきではないと思う。

計画立案段階に於る上級生の態度は、各自の希望クラブ以外の忙しさなどあるだろうが、冬山終了後部の最上級生になる者の態度とは思えない、又部の中核になろうという者も各自批判を受けるようになっていた。幸い最終的な計画決定後の準備や入山中は、自発的によく動いてくれ、C.L.も色々助けてくれた。

新人に関しては三人という少人数であるにもかかわらずESSEN当などの仕事をよくやってくれたと思う、しかし技術的な事、ネット生活に於ける工夫等各自で考えて考え直す事が必要である。一回教えてもらった事は次の時だけのものにせず自分のものにしようとする態度が必要ではないだろうか。二年生に関しては技術的な事はさておき、自分達の仕事に関してまだ責任を持つ立場ではないという事や三年生が多いという事を色々な面に少し甘んじている傾向はないだろうか。部歴に於いては仕事役割を分担していたのが今は一学年上の者が多く、不安感がある。それに甘んじているという精神面ではlevelが落ちてきているのではないだろうか。三年生に関しては判断力も含めて、技術としては、各自立派な物を知識として持っている、それを確実に実行しているかどうかという事である。自分達が部を動かして行くという姿勢と、実績をもっと身につけて貰いたい、もうすでにその領域に入っているがこれからの部を動かして行くのは君達なのだから。

スムーズに計画が進行した今回の冬山に於て一番問題にしたいのは上級生部員同士の考え方である。

冬は 最近の傾向であり又それを実践志向している
者もいる所の全天候行動というものの判断である確
かに装備類の進歩と共に可能となつてきたがこの全天候
行動は好天の時はなんでもないほんの小さな雪国で
最悪の状態に陥るという事を頭にに入れてほしい 雪
一つは 冬にしゃばくになり所でのビレーの考えが
ある時間を短縮するたぬズクの出しおしみの他にビレー
なしでも行ける(ビレーは必要ないのではなく)という判断の
早とちりなどの原因があるまあ冬だけ最近は大胆な行
動ができるようになったという事も言える。しかしこの事は
ほんのちょっとした事を取り返しのつかない事につながる
我々の登り方の中には冬の場合に於て可能な限りの
安全対策を持ってかつ大胆にというものがあると思う
これからすぐの春山、そして来年度からの山登りに
於て十分な安全対策を確実に実行して登って貰
たい。

赤沢山南東尾根隊(本隊)

Member C.L. 大安 徹雄(經4) 川口 隆(農3)
市野 和雄(農5) 高橋 雄治(農3)
中田 茂 (人3) 鈴木 忠(農2)
服部 幸雄(農2) 福島 浩(農1)
牧瀬 敏裕(農1) 吉田 秀樹(人1)

行動記録

12月21日 曇り時々雪

松本より早朝タクシー三台にて坂巻温泉のゲート上急入山
釜トンの首尾は雪が降りが多く、特に釜トンを抜けてからは
大きな雪が降り、崩に注意しながら通過。木村小屋に
計画書を提出してほぼ夏道通りに徳沢へと向かった。
トレースがあり、大部楽ではあったが夏の倍近く時間を用
した。

松本(4:50) — タクシー下車(6:30) — 帝国ホテル(9:40) —
明神(12:20) — 徳沢(1:45)

12月22日 快晴

徳沢より朝日に焼けた岩壁を見ながら横尾を過ぎ
奥に、幾分少なくなったトレースを辿り一保へと向か
た。二保の吊り橋を渡りツツパをつけて東南尾根荷上げ
地点へと急登を続けた。ここをC.L.と、ハント設営後赤沢

山東南尾根2000m地点まで荷上げを行なった。荷上げ地点
は、当初の台地状であるが、一時間程進むと急斜面となり
苦しいラッセルに変わった。急斜面を登り終ると急登を昇
った尾根状となり、密生した樹林に苦しめられ、ことになった。
2000m地点にテポにてシリセードで帰天

(赤沢山東南尾根を少し登った地点に一斗缶14個を11月中
に荷上げておいた)

徳須(6.35) — 横尾(7.35) — 二人俣出合(10.45)
荷上げ地点 荷上げ(12.15)
3.05

12月23日 曇り後雪

昨日のトレースを辿りテポ地点迄登々と進む。テポ地点
を過ぎても相変わらず密生した樹林と急斜面のラッセルに
苦しめられ、3匹程程、膝迄くまで埋まり雪と苦肉
の末、槍沢小屋の方へ派生して、尾根に出ると傾斜
も弱まり、ラッセルも楽となった。C2予定地であつたが、
星したPeakと手前の台地目指して、ハイ松に足を取られ
ながら雪の降る中をひたすら進んだ。

降雪の中をテポ回収又に向かう。今朝はトレースがつけ
ば早く往復とも1匹でよかった

C1(6.30) — テポ地点 — C2(2300m)(12.20)

テポ回収(13.20)
15.40

12月24日

雪

オルト工作隊 川口、高橋、中田、服部

ラッセル隊を兼海本隊に先行せし、昨日からの降雪に所々腰以上のラッセルとなり空身でラッセルせざるをえないような所があった。赤沢山Peakでは雪も止まり、しばらくはラッセルを断念せしめた。赤沢山と西岳の間に下りて、新所20m程採工作、新雪の直後であり雪の不安定を以て身を低くした。エルクが西岳小屋の縁に急な雪壁となっており、尾根らしき所をトンネルを掘っていきなりラッセルに転落して登頂する。と西岳小屋は採工作であった。

C2(7.15) — 赤沢山(9.30) — 採工作 — 最低コル(12.30)

西岳小屋 (15.55)

本隊 (残り6名)

工作隊を送り出した後、赤沢山への荷上げに向った。工作隊が先行していたが、足のためトレースが埋まり結構ラッセルがあった。赤沢山にテボ後帰途、テボ回収後再度赤沢山へと向かった。

C2(8.45) — 赤沢山(10.45) — C2(11.40)

C2(12.45) — 赤沢山(13.45) C2赤沢山へ移動

12月25日

雪後曇り

オルト工作隊

東麓のオルト工作を中止し、赤沢山へテボ回収に向った。最低コルへの下り区70m程採工作して最低コルにて赤沢山からの本隊と出合った。その後赤沢山に向かい最低コル-赤沢山を二往復して、テボ品を全て最低コルに移動した。最低コル迄採回収した後最低コルに降したテボの半分を採って西岳小屋に戻った。

西岳小屋 7.15 → 登山口 2.50 1.10 ~ 10.10
11.05 ← 11.35 赤沢山 標高 2010 位 後

本隊

おんが所を一年生、きつさながらも通過して西岳小屋
横にC3 設営、その後大岩、糸野、鈴木 最低 2010 位 赤沢
回収に向った。全装備、ESSEY が C3 迄 10 分 前後 槍 5 本
attack の倍勢ができた。昼頃より三年生 3 名にて西
からの下りに 10 分 前後 行 った

C2 (7.50) — 西岳小屋 (C3) (10.10)

テボ回収 (11.10 ~ 12.00) fix 工作 (12.10 ~ 2.30)

12月26日 大雪風雪
停滞

12月27日 快晴

工作隊 (川口、お野、きつ、鈴木)

アイゼン着用で一昨日おんが所を最初の 2010 へと
下った。夏道ルンゼの右の小尾根よりルンゼに降り
... 峠先の台地状の所へ移るとおんが 80m 程、ルンゼ
のトラバースは雪崩に気を配った。最終おんがより peak
を 30 分 程 越え コブ 状 岩 峰 の 後 に fix エコ 100m 程 行 い
木保乗越に下った。稜線は、ナイフリッジとなっており、又
小さな雪庇が左右不規則に出ている。ラッセルに苦労し
た。木保乗越からはひたすら深いラッセルに続出した。
ハシゴ場を 3 箇所 渡り、湖の上にテント設営。その後木
保乗越 3 日前に本隊がテボした一斗缶を回収に行った
西岳小屋 (6.30) — 木保乗越 (11.50) — 頂上の peak (1.45)
テボ回収 (2.55 ~ 3.53)

○本隊

西岳よりfix地奥を通過し、最初のコルより1pitch程進んだ所で工作隊に追いついたのでそこにテポして西岳小屋へ戻った。再度テント撤収後テポ地へ戻り、水俣乗越迄C₃を移動した。トレスはついでありラッセルがなく乗だした。が、fixが多くあり気を付けた。水俣乗越にテント設営後、上級生2人でテポ回収及びfix回収を行った。

C₃ 7:45 → 10:40 ← テポ地奥 C₃(11:45) — 水俣乗越(2:30)

12月28日 雪

○ルー — 作隊

テント設営地の PeakよりコルへSeilで一斗缶、ガックなどを降ろし、アプザイレン(30m)でコルへ下った。ガックが木の根に引、かかり非常に苦労した。一斗缶をコルにテポして今日も又、ラッセルに出発。ハミゴ場に15m程fixして大槍ヒュッテ手前のピークあたりで本隊に追いつかれた。うおとした急斜面でラッセルは遅々として進まず苦労した。大槍ヒュッテ迄は所々岩が出ていたが、ほとんど雪稜と成っていた。

顕著なpeak(6:30) — コル(8:45) — ハミゴ場上(10:15) —
大槍ヒュッテ(12:05)

○本隊

朝から九州南方にある低気圧の影響かアラシの降る天気と成った。工作隊のトレスを楽々と追ひ、ハミゴ場を通過してしまふ頃には工作隊に追いついてしまった。引き続き工作隊のトレスを追ひ大槍ヒュッテに着いた。テント設営後今日も又テポ回収にコルへと向かった。

水俣乗越(7:20) — コル(9:40 / 9:55) — ハミゴ場上(10:45 / 10:55) —
— 大槍ヒュッテ(12:20) ※ テポ回収(1:35 ~ 15:45)

12月29日 風雪

ルート工作隊を先行させ 本隊がそれに続いた。今迄程ラッセルは少くはく アイゼンの領域に変わった。槍のトラバースに2ヶ所fix工作する。肩の小屋前にテント設置後、何回目かのデポ回収を弁存った。槍のトラバースは夏道より少し上の雪面をトラバースして、肩の小屋に出た。

大槍ヒュッテ (工作隊 7:15) ——— 肩の小屋 (工作隊 9:50)
本隊 8:00 本隊 10:10

デポ回収 (大槍ヒュッテ) 12:00 ~ 3:00

12月30日 風雪

停滞 夕方北鎌隊合流

12月31日 風雪

北穂アタック隊 弘 大安 川口 高橋 中田

槍の肩を昔様に送られ出発。割合クラストしており快調にアイゼンが効いた。ガスは遠のいているが相変わらず風は強い。中岳の下りでは偵察時と同じ尾根に又しても迷い込んでしまった。中岳ピークに引き返しガスの中を記憶をたどって下った。中岳を下った後南岳迄は夏道が所々に出ており、乞してたいした起伏もないので快調であった。しかし思いの外この間は長く感じられた。南岳の小屋は埋まっていたが、入口迄トンネルが掘ってあり、我々も仲間に入れてもらい快適な生活を過ごせた。

槍の肩 (10:25) — 中岳 (11:40) — 南岳小屋 (1:10)

○中崎尾根偵察隊 Ⅱ 小根田, 三井, 鈴木, 服部

テントを出発、肩からの降り口は、ものすごい吹き上げの風に行えが定められず、岩も出ており、アイゼンでは全く歩みにくかった。中崎尾根の降り口には、どこかの山岳会の赤旗があり、それに導かれて下った。最後の平坦になる手前の雪壁状の所に40mのfixをし、肩に戻った。途中快晴となり槍ヶ岳の厳しい姿が午後の陽の光を浴びてまぶしかった。

槍の肩(12:30)——中崎尾根fix地裏(1:00~2:30)——槍の肩(3:15)

○槍ヶ岳アタック Ⅱ 市野, 渡部, 鈴木, 服部

作りの後、上総氏のメンバーチェンジをして槍のPEAKへ向った。頂上では、スロウケンが美しく映り、静かであった。下りはアンカイルンしてスタカットで、肩へと下った。

槍の肩(3:25)——槍ヶ岳大滝頂上(3:45)

1月11日 ○北穂アタック隊 晴れ 後風雪

南岳小屋を日の出と共に出発。キレットの底迄一気に下る。トレスもあり又fixもしてあったので楽であった。キレットの麓から北穂への登りは、さ程雪も付いておらず理所要所にfixもしてあったので、どうと言う事はなかったが、最後のPEAKへの登りはミンドかった。城砦のような巖谷が真近に見られ、登攀Pも2~3見られた。帰りも当初予想していた程でなく、幾分かの満足を感じながら往路を南岳の小屋へと下った。

南岳小屋(7:15)——キレット最低コル(8:45)——北穂Peak
(10:25)——キレット最低コル(12:10)——南岳小屋(1:40)

本隊は穂の肩で停滞

7月2日 風雪

。北穂隊

吹雪の中をイヤイヤながら下山の事を考え穂の肩を目指す。中岳付近迄は霧がスのため視界が悪く苦労した。中岳から肩までは吹きつける雪の為、目も開けられず 四苦八苦したが 存んとか肩迄、肩にて昼食後 長かった肩での生活を後にして西嶽を向かい風に悩まされながらも中崎尾根の下降處に達す。しばらくナイフリッパとなった中崎尾根を下り、FIX地帯を慎重に通過して平坦な尾根に変わる地帯にテントを設営した。

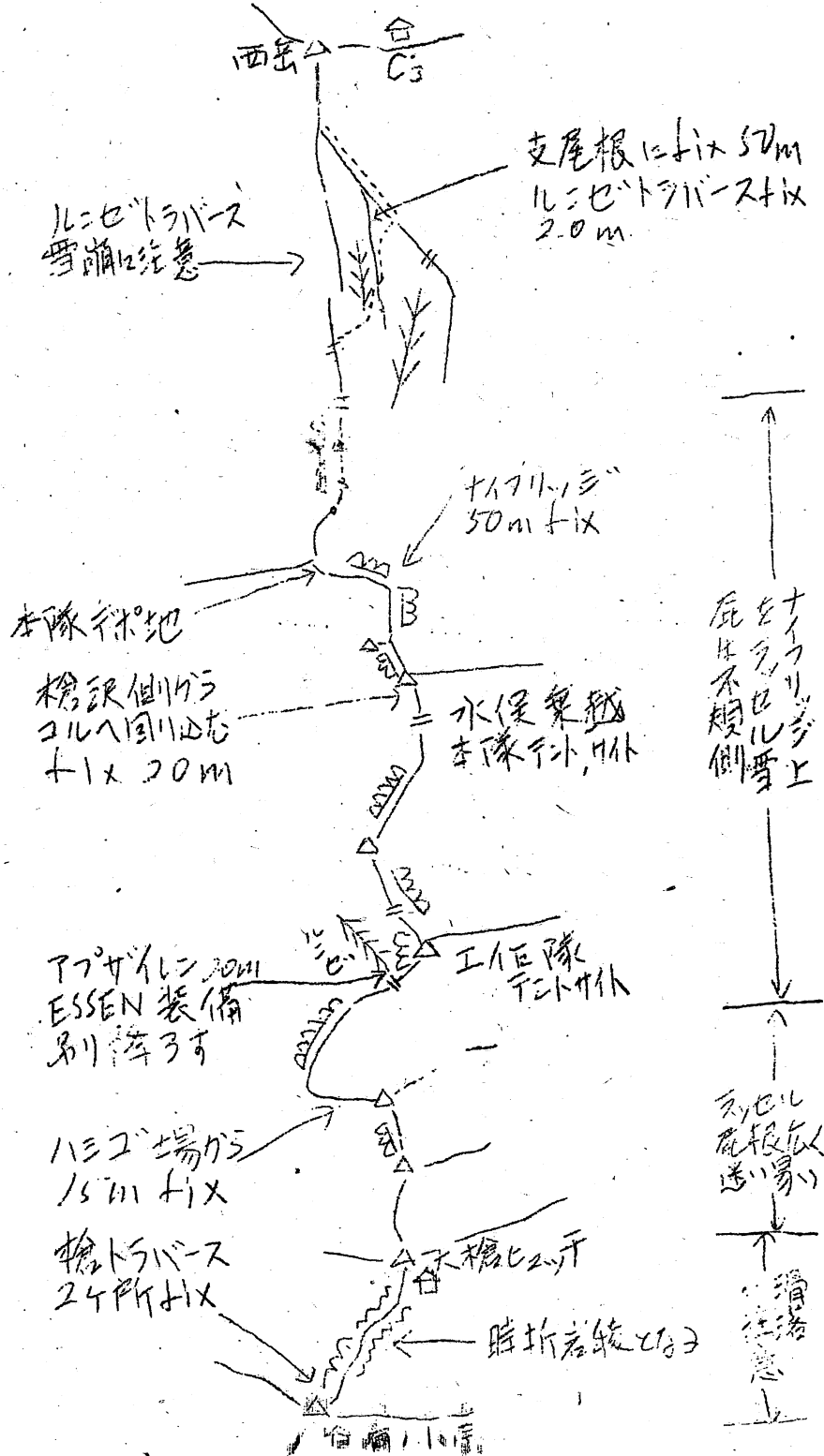
南岳小屋(8:00) — 木倉の岳(11:00) — 中崎尾根設営地(14:30) — (16:30)

1月3日 風雪後曇り

中崎尾根を忠実にたどる。前日の積雪が かなりあり、厳しいラッセルであるが人数が多いので 楽だった。奥丸山手前より穂平へ下った。穂平からは穂高側からの雪崩に注意しながらインターバルさながらのかけ足で滝谷出合避難小屋まで下った。あとは新穂高迄 重たい一斗缶を気にしながら林道を下った。

テント設営地(8:05) — 穂平(12:30) — 新穂高(4:30)

東嶺尾根ルート図(西岳〜槍ヶ岳)



北鎌尾根

MEMBER (L) 小根田 一郎・A4 (SL) 三坂 健二・A4
三井 和夫・L3 渡部 光則・A3

12/25
松本
↓
大町
↓
葛

松本駅では集合や車の遅れで出発からつまづく。おまけに 笹平
笹平からは雪崩の為、車も人も全面通行止めで大町まで一
帰り直すおそまつ。理由をつけて何だかんだと工事の車を
通しているし、明日も確実に通れるかどうか不明だし、雪崩
は大丈夫なのだし、結局、大町駅で夕食の後、最終のバスで
笹平まで入る。着視人は、もうおらず、現場の車は勝つて
通っているし、我々も無視して歩き始める。11セト (=licht
独語でライトを意味する) は11月の屋上で、葛温泉の横にテ
ントを張る。

松本 13:10 → 大町 13:50 ~ 14:20 → 笹平 14:40 ~ 17:15
→ 大町 17:45 ~ 18:50 → 笹平 19:10 ~ 19:15 ~ 葛温泉
19:50 Camp 20:50 9°C 無風 ガス

※教訓 一般において ①絶対通行で
きる② 1ル通行止めにしておくの2通りある。後
者②の場合は通行すべし。

12/26
葛
↓
湯俣

東沢出合までは除雪したトラック道やトンネルを快適に飛ばす。
トラックの通行多く気をつけねばならない。東沢出合から
ツボ足のトレース伝いにたどるが、時折がぼりエライエライ。
T.S 7:00 @ 1°C → 山の神手前 7:50 ~ 8:05 @ → 不動滝
9:00 ~ 9:20 @ 5°C → 東沢出合 10:00 ⊗ → 東電小屋
12:05 ~ 14:45 ⊗ → 調整池 14:40 ~ 15:00 ⊗ 2°C →
湯俣 15:00 ⊗ ~ ⊗ 17:00 0°C

12/27
湯俣
↓
Pz
↓
P5P6のソル

湯俣からも しっかりしたトレースあり助かる。特に千天出合
から取付付きまではトレースが薄いと少しの向だがエライ。
今回は取付付はワイヤーを使ってるの千日リアンブは
不用で、積雪を1た岸へ是た渡れた。快適で登行気分も良
く、急な尾根をぐんぐん登る。縦線直下ハミガの所はハミガ
が壊れていて40mfixして通過する。もう1かした壁の急傾
斜の場所。Pzで EISEN。トランシーバー交信が激めて喜び
る。本隊も快適に進んでいる。

、P4以下の雪のクローワールは安定して1日で問題無し。雪がfixがある。P4少し手前に明走木のテントがあり、彼等から、ここから先はトレースが正しいと言われがっかりするが、我々が北峰で先頭パーティとなりウシシクもある。P5手前の小peakでリフトを出す。今日中にP5のトラバースを終える予定で本隊とも交信する。三坂小根田がfix作業を終りトラバース開始。少し風も出て来た。全くの周回では無いが、リフトに照らし出した斜面はやはり夜間だけに左斜めに切れ落ちて見える。積雪状態が比較的安定して1日助かる。40mのfixの後、小根田一帯で、三坂一三井のオーダーで、スタカットで更に斜め左にトラバース、小さは被を越えた後P5 P6のコルへ上るルンゼを登る。P5 P6のコルへ上った時は腰も減りバテ気味であった。コルにテントを設営。何とか設営出来た。テントに全員入ったのは19:00 PM 近く夕食からお茶と何かかんたんでオールニッポンナイトが始まる頃まで起きていた。

7:00 @ → 干天出命 10:050 → P2 取付 10:30~550 → P2 13:00
 ~500 無風 → トランシーバー交信 16:05~150 → P4 16:40~17:150
 → 18:00 ~19:00 -900 ルートワーク fix → P5トラバース → P5 P6のコル
 21:20 @ Camp

12/28 @ と ⊗
 行動可能な天候であるが、昨日の疲れもあって停滞

12/29 雪が降っているが風はそれほどないので行動する。P6は干丈天狗に残雪fixがあり簡単に登退出来、北峰コルへ。天狗の腰掛を越え、独標(P10)の直下のコルにつく頃風雪となる。コルにリュックを置き独標を偵察する。トラバースルートは積雪状態悪く、中央ルンゼにルートを作る。盛んに干り雪崩が落ちる。小根田一帯で、三坂一三井のオーダーで 岩と氷の壁をトラバースする。そして小さはリップを回す。トラバースはアイゼンの前のツマギのみでホールドも無く緊張した。セレイする者は思い以上に干り+ゲレンゲをたびたび落ちていかんともしかたない。1pitch半で主稜線の岩稜に出て 1pitch スタカットでザイルを縮く。そこから白い斜面をラッセルして独標へ。独標からは岩稜を少し下降りしコルへ出る。次のピーク P11を越すルートが見つからず。風雪まじしくせまいコルにテント

次ページに続く

P5 P6のコル → 独標 → P10 P11のコル ——

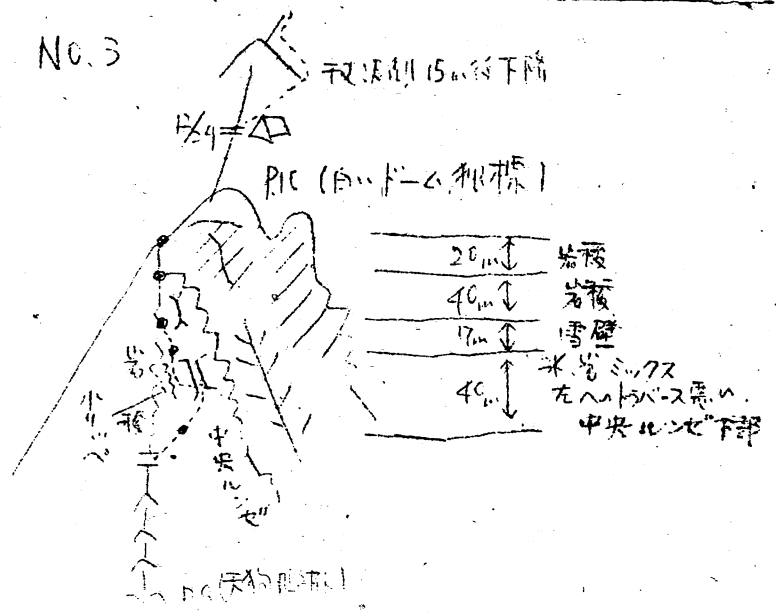
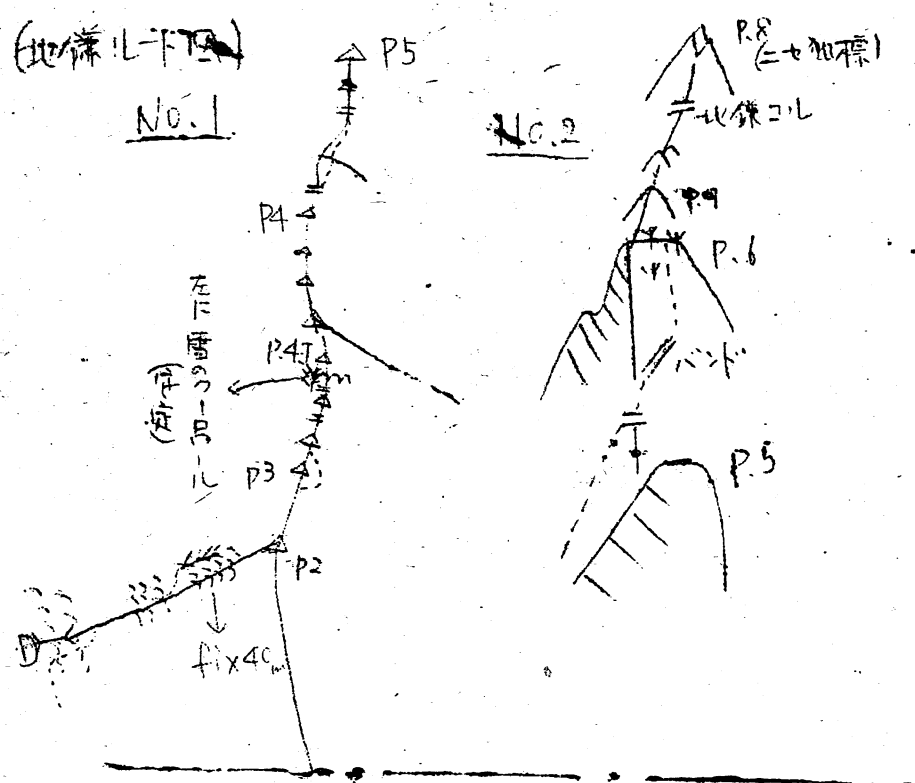
下燃めりしものを覚悟で Camp. 15:30 - 16:00 交通不能.
 C/N 6:45 → 26 → 北條 col 17:45 ⊗ → 天根山脚
 8:50 ~ 9:10 ⊗ → ~~天根山~~ 11:00 ⊗ 同山 →
 天根山脚にて甘化して7時半 → 11:00 ⊗ 同山 →
 → Pio. PII col → PII 山頂にて11:00 ⊗ 同山 →
 Camp. 16:00 ⊗ 同山

12/30

Pio PII col
 ↓
 天根山
 ↓
 天根山
 天根山

昨日の天根山は今日も終日 風雪と寒いので 朝寒で天の
 山に上るには 3. 7. 10. 13. 16. 19. 22. 25. 28. 31. 34. 37. 40. 43. 46. 49. 52. 55. 58. 61. 64. 67. 70. 73. 76. 79. 82. 85. 88. 91. 94. 97. 100. 103. 106. 109. 112. 115. 118. 121. 124. 127. 130. 133. 136. 139. 142. 145. 148. 151. 154. 157. 160. 163. 166. 169. 172. 175. 178. 181. 184. 187. 190. 193. 196. 199. 202. 205. 208. 211. 214. 217. 220. 223. 226. 229. 232. 235. 238. 241. 244. 247. 250. 253. 256. 259. 262. 265. 268. 271. 274. 277. 280. 283. 286. 289. 292. 295. 298. 301. 304. 307. 310. 313. 316. 319. 322. 325. 328. 331. 334. 337. 340. 343. 346. 349. 352. 355. 358. 361. 364. 367. 370. 373. 376. 379. 382. 385. 388. 391. 394. 397. 400. 403. 406. 409. 412. 415. 418. 421. 424. 427. 430. 433. 436. 439. 442. 445. 448. 451. 454. 457. 460. 463. 466. 469. 472. 475. 478. 481. 484. 487. 490. 493. 496. 499. 502. 505. 508. 511. 514. 517. 520. 523. 526. 529. 532. 535. 538. 541. 544. 547. 550. 553. 556. 559. 562. 565. 568. 571. 574. 577. 580. 583. 586. 589. 592. 595. 598. 601. 604. 607. 610. 613. 616. 619. 622. 625. 628. 631. 634. 637. 640. 643. 646. 649. 652. 655. 658. 661. 664. 667. 670. 673. 676. 679. 682. 685. 688. 691. 694. 697. 700. 703. 706. 709. 712. 715. 718. 721. 724. 727. 730. 733. 736. 739. 742. 745. 748. 751. 754. 757. 760. 763. 766. 769. 772. 775. 778. 781. 784. 787. 790. 793. 796. 799. 802. 805. 808. 811. 814. 817. 820. 823. 826. 829. 832. 835. 838. 841. 844. 847. 850. 853. 856. 859. 862. 865. 868. 871. 874. 877. 880. 883. 886. 889. 892. 895. 898. 901. 904. 907. 910. 913. 916. 919. 922. 925. 928. 931. 934. 937. 940. 943. 946. 949. 952. 955. 958. 961. 964. 967. 970. 973. 976. 979. 982. 985. 988. 991. 994. 997. 1000.

と一筋に序々に候等の心も流けていた。
 C. 11:45 の冰風 → 検基部 14:55 ~ 15:10 杖崎 疎圃 一木
 → 稀々岳頂上 16:15 ⊕ → 検自 16:50 ⊕ : 本隊と合流



NO4

→雪稜

ゆ317斜面

千丈沢側

P14

白いセク

P11

NO5

大槍3180m

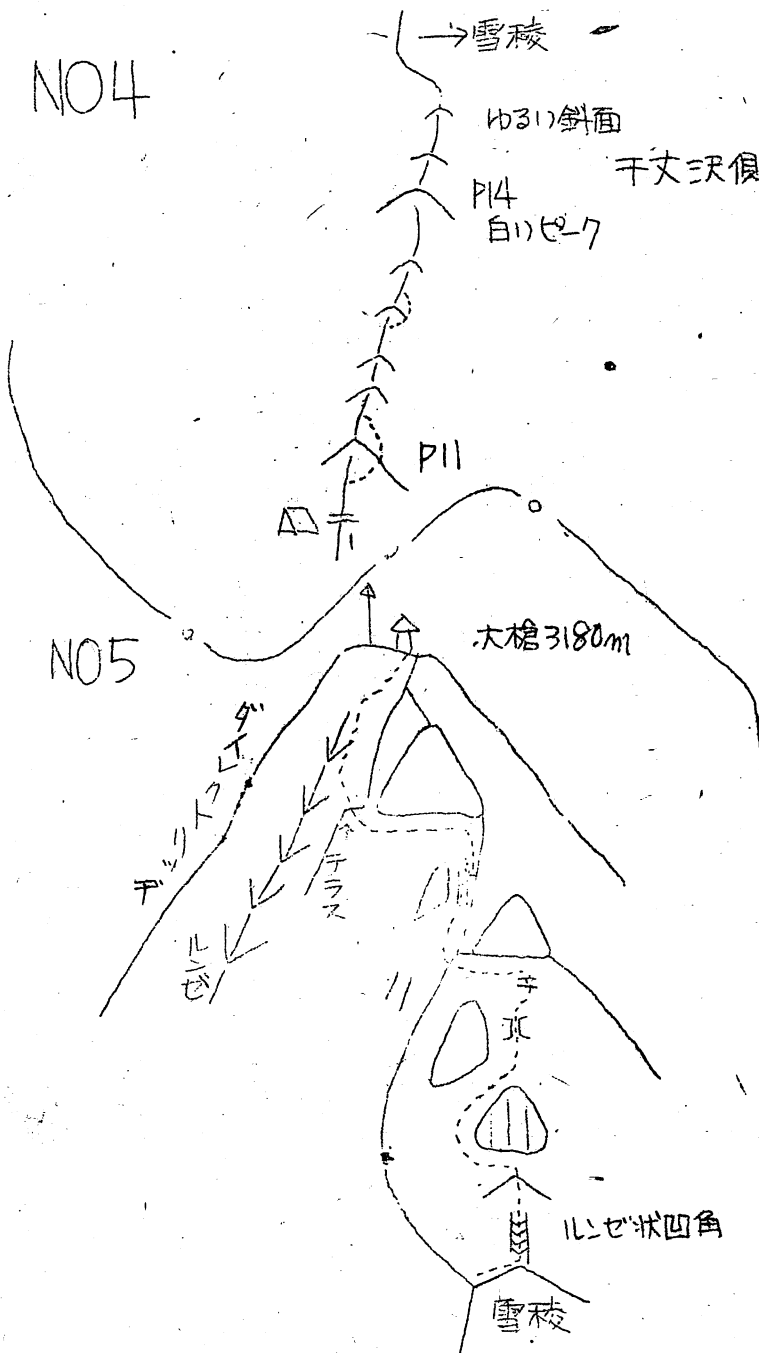
テラス
ルンゼ

テラス

テラス

ルンゼ状四角

雪稜



各係反省

○ 装備係

C 中田

冬山を終えて、装備の重大なミスもなく、支障をきたす出来事も起こらず、ほっとしています。しかし細石を上げれば、まだまだ考えれば(+)けない)向題が有り、その内のいくつかを 山行中気になったもので取り上げてみたい)と思います。

1、ガソリン、ケロシン(石油)類

ガソリン、石油、共に外量に替換したため、不足が出なかった事は何れも幸いでした。しかし極端に比して、ガソリンの量が、多々余ってしまった事に関しては一考を要す。(特に山行前の概算計算)。

2、バグ

今回 持って行ったバグは 不良品が多かった様です。山行中、苦情が 装備係に たくさん出ました。特に3年から。やはりバグは生き竹でなくてはダメ。幸い下山中に 富山の 駅弁“マスすし”についていた竹が良い見本と存りました。あれ位のものでなくては、冬山は 通用しません。

3、天幕のこと

北極圏のテントですが、少しカサばりすぎたようです。もう少し小さめのテントが 必要なのでは。

本隊に於ては、外フレームを使用しましたが、てまが かなり強固によりフレームの先端がけすれやす!)。以後はできるだけ内フレームがよろしい)と思います。

最後に

準備に於る装備係はよくやった)と思います。山行の1週間前より、登攀具、火器、その他の点検を行い、不良品は直し、修繕したりしました。しかし一後片付けの段階で、もっとしっかりやりた)が)と思います。このまうに最後をうやむやに片付けてしまうと、後でまとめる時に重たい)となって しまいます。

○ ESSEN 係

C. 後部

簡条書きにまとめと反省をします。

- (1) 先に計画(行動表等)が完全に出来ておらず段階で、16×10人日分の ESSEN - とカン 14ヶ、及 槍の肩の分(北隊隊用) 4×3人日分 ESSEN - とカン 1ヶ半、をデボに行かねばならなかった矣は、しかしながら、その ESSEN 計画の時算に於て、融通性の乏しくような、後で最終の計画をも満足すべく、考慮した ESSEN 計画ではなかった矣ともども、問題であったと思う。
- (2) 再デボをした矣 → 赤次山東南尾根取り付きに残りず、全くムダをしただけ。これは(1)の頃と関連する。
- (3) 槍北後の行動 ESSEN を、槍肩にデボするの先、一策だったかと思えます。
- (4) 一部 4年生から指摘があった、"バックパック"方法に関して。その日付="どのバックパック"方法に対して、〇××〇日分といった"バックパック"をして、自由にその日分 ESSEN を組んで食べる方法があると、根本部会でいわれました。しかし ESSEN 係の Chief として、小生は前者を今次の山行に於ては better と考へたし、下山後もそう考へておきます。たしかに、後者では、海外の高峰攻撃の際の極地法登山で使われますが、日本で今次の様に、Camp を移動して行く山行では、支障あると考へたからです。行故ならば、前者の"バックパック"方法では、Camp site 着後の少ない時間に於て、残存量の把握が簡単であるし、カンボルや一斗カンの開封の無効も少なく、機械的にその日の ESSEN を表通り、作りこむが出来て、便利だからです。只 反面、柔軟性に欠け、調整日が今次のように少なく大巾に ESSEN が余り、自由に作るようになった時、山行中に人数の及日数の変更をして、再び ESSEN 計画を立て直したりする時、融通性に欠けることはあります。(槍肩の北隊隊 今回後の ESSEN)

北本 attack 隊の Essen 1 俵、北本 attack のため本隊が持
持中の Essen (etc)

5) Essen は、バリエーションに富んでおきないながらも、もう
少し内容を少くして、3種類位の組合せ (B, L, D. の)
で、Essen 計画をたてる (4) の頃の欠点をあきらかに
融通性に富むものとなると思う。(バリエーションに富むと
いっても、貝かハロミカンで、味は油キタキタで大差
なく、メニューの名前だけの「きやかさ」というのが実
状ですわい)

6) 本隊に聞けば、ルート作隊用の Essen 「かはり
区別」でき (色別) にある、お祭の際スムーズに出来た。

7) 全体的に、信太山岳部は、他山岳部と比して、馬鹿の
大食いか通じるのではないかと!
常人並みにしてあげれば、一番早く軽量化の道となる。
体を動かすのか、11 割になる程で「食べたー、
満足ー」みたいな感じ、この辺で満足に
してあげてもいい。(とはいつても、小生が二食目の通じ比
べて、信太も小生にはなつたか、と小生も「た」)

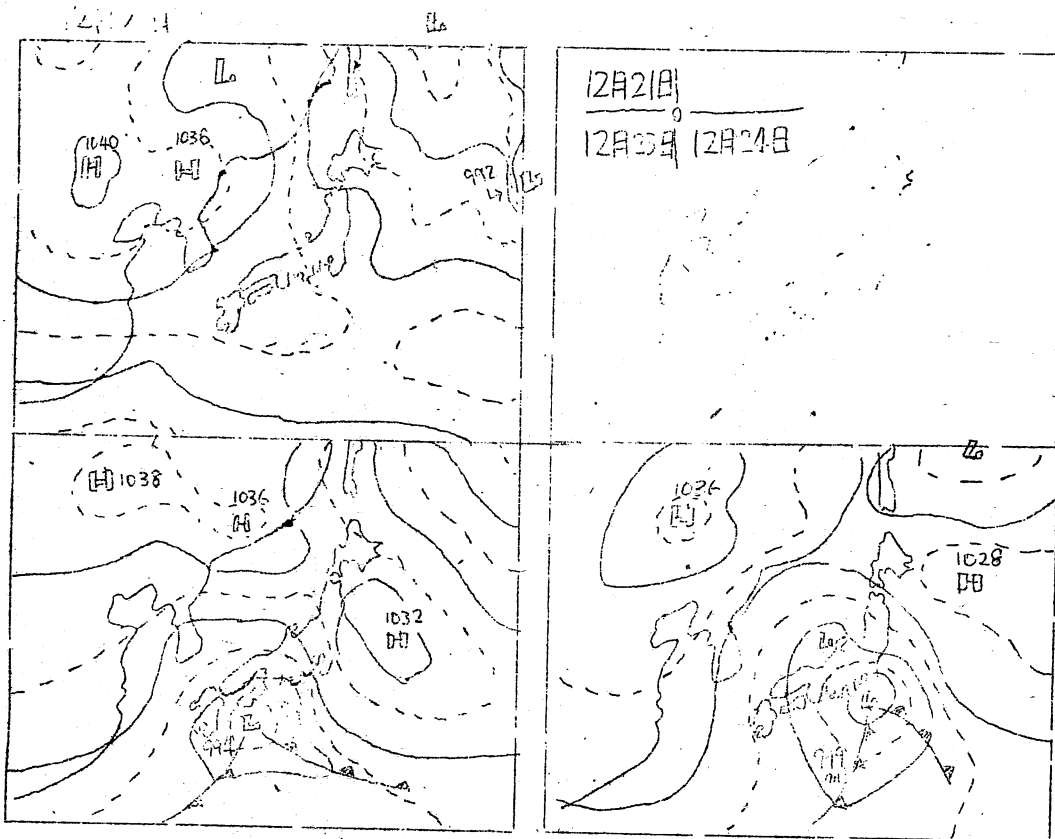
8) 不満の「か」は、言によせと下山後、いたのだ
が期限の $\frac{1}{2}$ まで一通の不満はないので、不満
はなかったものとみなす。
調味量は、最初から、持参しない計画であったので、これ
はこれと、いいと思う。このように、こんだてを考えたのだから。

以上で、細々と LT しては、終りにしてあげ、今回
全行脚に関して、その支障に存する様な問題はあ
らう、天候にも恵れて、食糧を既に下山する程、
恵まれて、まずは、ほっとしておける。たしかに、我々
食へるために山に行くわけではないのであ、行動の疎
たる Essen — 計画から内容、バリエーション、料理に
わたるまで、全行、上記の如く、欠点を潰していく
気が湧きました。次の春山、担当になる Essen 係の
人は、今一巻、本家に帰って Essen を考えてみて欲し
いと思ひます。最後に、2 食目と下にもっと自主的に動
いてもらうべく、3 食目の小生は、自覚すべきだったこと
を書き加えて、終りとします。

気象係

(高橋)

全体的に見ても異常な天候もたぐ並の冬山であったと思われる。
日ごは簡単な山行中の天気圖をもつておく。実際の予報も大きな
誤りもなく特に問題はないと思う。かこの程度の気象報告しか
でなかったのは少しさびしいが、
個人のかではどうしようもない事で 部全体としての気象知識—天
気圖の見方、観天望気 etc、雪に対する知識が増えたり長期
的なかつみ積ゆぎの指導があってこそ、誰れが気象係に
なるとも、~~その~~考察が加えられるのではあるかとも思う。
最後に気象のフリントが配布が遅くなった事を反省します。



[12月21日] 1 応冬型の気圧配置を
 みせている。曇り時々雪であ
 るが明神当りでは雲の切れ目か
 ら青空が のぞいていた。

[12月21日] ○→⊙

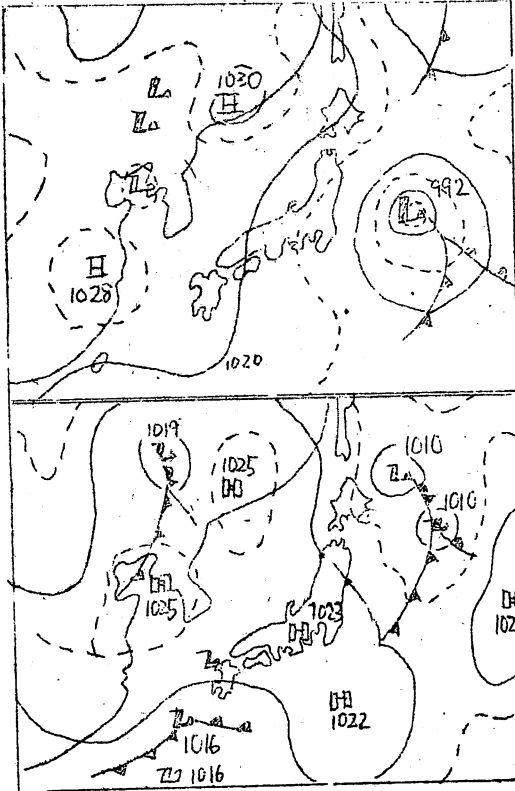
朝は-1℃と冷え込む。曇り晴れて
 前穂のモルゲンロートが美しい。
 しかし午後には雲が増えてきた。

[12月23日] ⊙→⊕ (10ラック)
 森林限界を越える少し前から⊕
 になっていく山の麓にくずれ方
 が小さい。

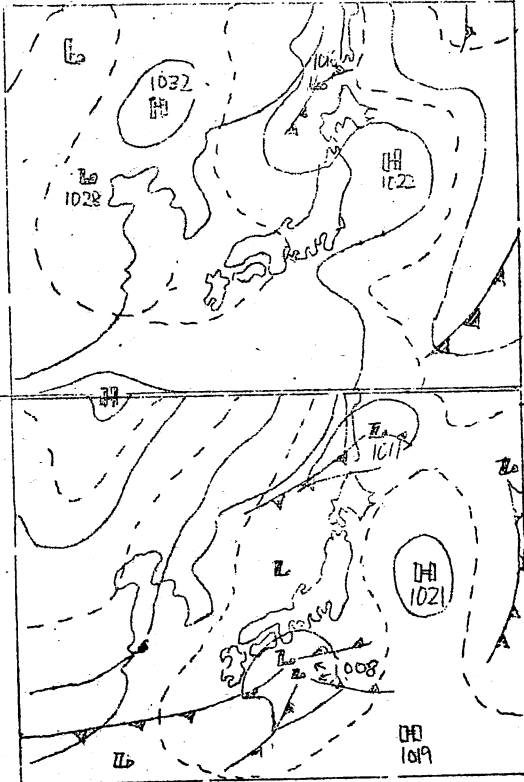
12月24日 ⊕

終日雪であるが風も弱く大き
 くすれなかった。

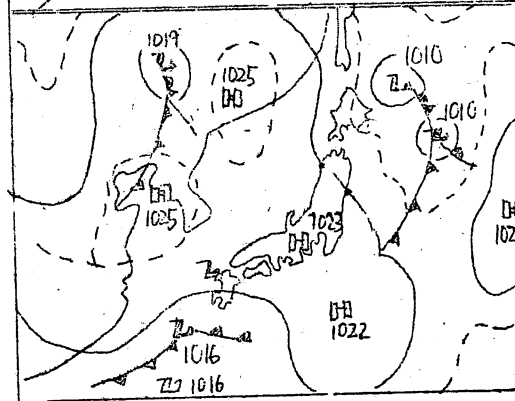
12月25日



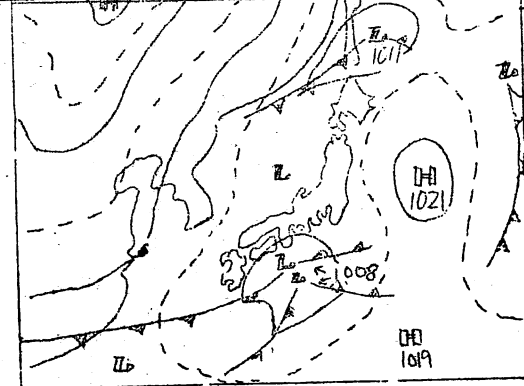
12月26日



12月27日



12月28日



[12月25日]

朝のうちは低気圧の影響のため
 ◎で、小雪がパラック天気であ
 ったが西岳小屋へ着くころか
 ら天気がよくなった。(◎→○)

[12月26日] ⊗

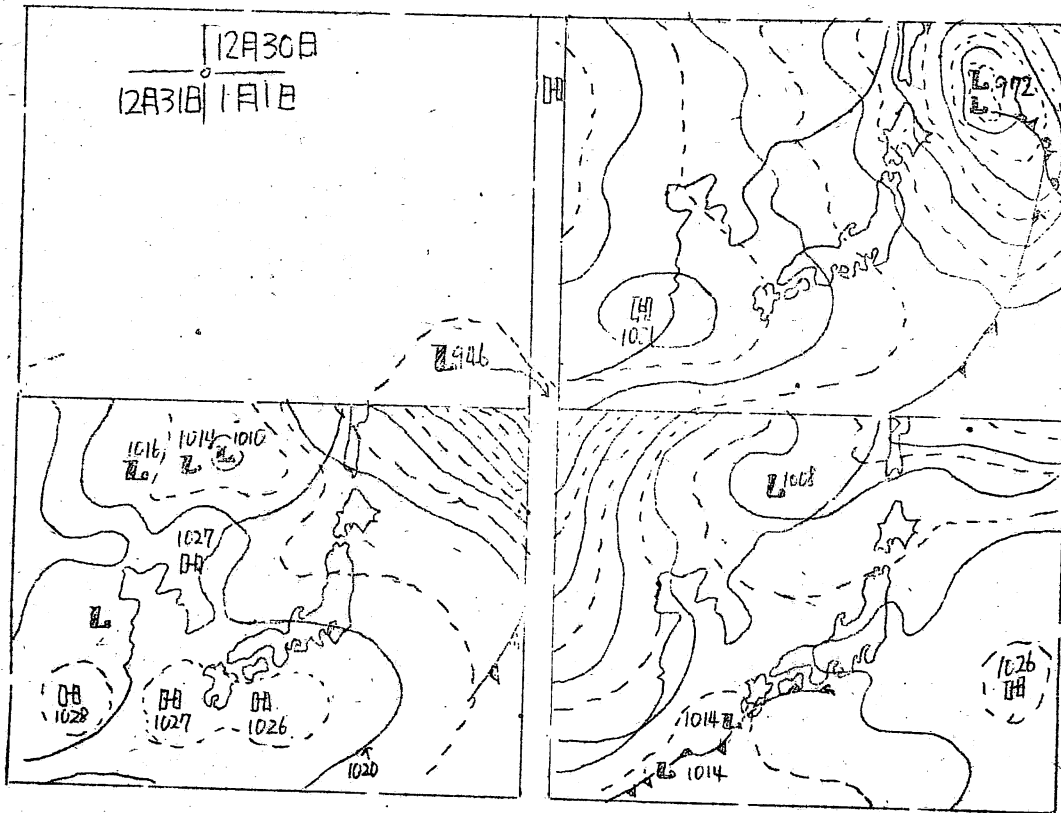
昨日大陸にあった駒は雪を消し
 弱い気圧の谷にはいらたためか
 予想外(天気図より)に悪くなった。

[12月27日] ○

夜明け前は風も強く寒さが厳し
 かったが終日に晴れであった。
 南方に見えていた雲のための緋
 雲は日没と共に急激におしよせ
 夜には全天をおおってしまった。

[12月28日] ⊗ ☁

今日は終日雪。



[12月29日] ⊗ 風強し

今日は天気図を取ることが
できなかったが、最もツライ
とあった。冬型

[12月30日] 地吹雪

温度計では計れぬ位気温が下った。
上空は晴れているものの猛裂な風。
日中でも-15℃と寒い。

[12月31日] ⊙ 地吹雪

風頃までは昨日と同じ様だが、
夕方頃から風もやみ、隠やかに、
満天の星空の大晦日の夜。

[1月2日] ⊗ → ⊗ 風強し

朝、テントは半分以上埋まってい
た。風頃より風も強くなり、

[1月1日] ⊙ → ⊗

はやくも午後からは雪が降り始めた。
大陸の高気圧は1064mbとものすごい。

西線を下るころは猛裂な風に悩む。
今日下ってよかった。